

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 1 部門第 2 区分
【発行日】令和 6 年 5 月 10 日(2024.5.10)

【公開番号】特開 2023-155075(P2023-155075A)
【公開日】令和 5 年 10 月 20 日(2023.10.20)
【年通号数】公開公報(特許)2023-198
【出願番号】特願 2022-64823(P2022-64823)
【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02(2006.01)

10

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 0 4 D

A 6 3 F 7/02 3 1 1 A

【手続補正書】

【提出日】令和 6 年 4 月 30 日(2024.4.30)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

20

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

遊技領域を流下した遊技球が入球可能な入賞口と、前記遊技領域を流下した遊技球が前記遊技領域の下部で入球可能なアウト口と、前記アウト口より上方で入球可能なサブアウト口を有する遊技盤を備えた遊技機であって、

前記サブアウト口の近傍には、前記サブアウト口が入賞口でないことを示すアウト表記部が設けられ、

前記アウト表記部は、シール体に印刷されており、

前記シール体の後方には発光手段を設け、

30

前記アウト表記部は、少なくとも、表記の主体となる表記本体部と該表記本体部の周縁に接して設けられている表記周縁部とからなり、文字あるいは記号が形成されたものであり、

前記表記周縁部は、前記アウト表記部より外側で広がる外側領域と装飾が異なり、

前記表記本体部は、前記外側領域に比べて透光度合いが低くなるように形成されてなり、

さらに、前記アウト表記部は、前記シール体の貼付面側からも視認可能である

ことを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 5

40

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 5】

そこで、本発明は、上記の実情に鑑み、アウト口の表記により興趣の低下を抑制させることが可能な遊技機の提供を課題とするものである。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

50

【 0 0 0 6 】

本発明は、

遊技領域を流下した遊技球が入球可能な入賞口と、前記遊技領域を流下した遊技球が前記遊技領域の下部で入球可能なアウト口と、前記アウト口より上方で入球可能なサブアウト口を有する遊技盤を備えた遊技機であって、

前記サブアウト口の近傍には、前記サブアウト口が入賞口でないことを示すアウト表記部が設けられ、

前記アウト表記部は、シール体に印刷されており、

前記シール体の後方には発光手段を設け、

前記アウト表記部は、少なくとも、表記の主体となる表記本体部と該表記本体部の周縁に接して設けられている表記周縁部とからなり、文字あるいは記号が形成されたものであり、

10

前記表記周縁部は、前記アウト表記部より外側で広がる外側領域と装飾が異なり、

前記表記本体部は、前記外側領域に比べて透光度合いが低くなるように形成されてなり、

さらに、前記アウト表記部は、前記シール体の貼付面側からも視認可能である

ことを特徴とする。

また、本発明とは別発明として以下の手段を参考的に開示する。

手段 1 :

遊技領域を流下した遊技球が入球可能な入賞口と、前記遊技領域を流下した遊技球が入球可能で、入球した遊技球を前記遊技領域外に排出するアウト口とを有する遊技盤を備えた遊技機であって、

20

前記アウト口として、少なくとも第一アウト口と第二アウト口とが設けられ、

前記遊技盤には、前記第一アウト口に対応する第一アウト表記と、前記第二アウト口に対応する第二アウト表記とが設けられており、

前記第一アウト表記と前記第二アウト表記は、異なる字体で設けられていることを特徴とする。

【 手 続 補 正 4 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 4 4

【 補 正 方 法 】 変 更

30

【 補 正 の 内 容 】

【 0 0 4 4 】

このように、本発明によれば、アウト口の表記により興趣の低下を抑制させることが可能な遊技機を提供することができる。

40

50